◆講演『原子力安全規制－法学と先端科学技術の交錯』

講師/中央大学理事長特別顧問
法科大学院教授 大貫 裕之 氏

【講演概要】

2021 年の福島原子力発電所の事故のあと、日本の原子力安全規制の法体系は大きく変容した。それらの法規制からいくつかを選んで(40 年運転規制、バックフィット、原子力規制検査を予定している)、法学者の拘り、基本前提の観点から、分析する。



講師紹介
大貫 裕之(おおぬき ひろゆき)

1984 年東北大学大学院法学研究科公法学専攻博士前期課程修了、東北大学法学部助手、東北学院大学法学部教授。2004 年より中央大学法科大学院教授。原子力安全規制、都市計画法制、警察による社会統制などを研究。日本エネルギー法研究所・原子力安全規制研究班・主査(現職)。都市計画と法政策学との連携推進研究会委員(土地総合研究所)(現職)。再生可能エネルギー主力電源化制度改革小委員会委員(経済産業省・資源エネルギー庁)。

論文 「バックフィット覚書－原子力規制庁『バックフィットの検討プロセス』(令和 4 年 11 月 30 日)を素材として」、「不確実な事実を法的にどう扱うか―原子力裁判を素材として」(いずれも日本エネルギー法研究所報告書)など。

◆講演『これからのエネルギーと地球温暖化問題を考える』

講師/日本エネルギー経済研究所環境ユニット
気候変動グループ研究主幹 小川 順子 氏

【講演概要】

世界と日本のエネルギー需給構造を概観し、資源輸入への依存や地政学的リスクがもたらすエネルギー危機と、家計・産業への影響を解説する。さらに、国際的な気候変動政策の動向と、日本のカーボンニュートラル・GX 政策、排出量取引制度を紹介する。安定供給、経済性、環境適合を両立させるための政策のあり方を考える。



講師紹介
小川 順子(おがわ じゅんこ)

青山学院大学国際政治経済学部を大学院飛び級入学のため退学、青山学院大学国際政治経済学研究科修士課程修了 (1997 年 3 月)。アジア太平洋エネルギー研究センター入所 (1997 年 4 月)。日本エネルギー経済研究所環境グループ研究員、主任研究員を経て 2013 年 4 月より環境ユニット研究主幹。

2023 年～経済産業省 GX 補助金審査委員、2024 年～埼玉県環境審議会委員、2025 年～経済産業省産業構造審議会イノベーション・環境分科会排出量取引制度小委員会製造業ベンチマーク検討ワーキンググループ 委員

著書『地球のためにできること どう使う？ どうつくる？ エネルギー』 (国土社、2025 年 3 月) 『原子力と環境の経済学-スウェーデンのジレンマ』 (W.ノードハウス著、翻訳単行本、1999 年) など。